

第1回津市新最終処分場候補地選定委員会概要報告

- 1 日 時 平成20年5月14日(水) 午後6時～午後7時30分
- 2 場 所 津市久居中央公民館 3階 大会議室
- 3 参加者 選定委員3名、市職員22名、傍聴者65名、報道関係者7名
- 4 事項
 - ア 津市新最終処分場候補地選定委員会の設置について
 - イ 委員の紹介
 - ウ 津市新最終処分場候補地選定委員会委員長選出
委員長に笠倉忠夫氏が就任
 - エ 新最終処分場整備方針及び公募に至った経緯について
 - オ 新最終処分場に係る応募候補地について
 - (ア) 応募候補地の申請内容及び調査状況について
 - (イ) 今後のスケジュールについて
 - (ウ) 公開現地視察の実施について
- 5 意見要旨
 - (1) 新最終処分場整備方針及び公募に至った経緯について
 - ア 今回、4候補地の応募をいただいた2自治会は、新最終処分場整備構想で検討してきたクローズド方式で水等の処理も完璧にやっていくということを前提に御応募をいただいているはずである。したがって、市は住民の皆さまの意向に沿うよう、この構想の実現に向け前向きに取り組んでいくべきである。
 - イ 市民一人ひとりがごみの分別をすることにより、リサイクルができる。その結果、最終処分場に入るごみがどれだけ少なくなるかによって、最終処分場の規模も決まる。
 - ウ 我々の想定では総建設費約143億円としたが、一般廃棄物処理計画の取組によって、もっとお金をかけなくて済むかもしれない。逆に、全てをゴミに出せば、もっと大きな規模の処分場が必要となる。最終処分場を検討するときには常にゴミを出す我々もごみ減量を考えていき

い。それが応募をいただいた地元の皆さんに対して果たすべき責任である。

エ 津市の市民1人あたりの排出量・処理費用は、全国平均に比べ高い。埋める前にごみの減量をするをきっちり考えていくことをPRしていくことが大切である。

(2) 新最終処分場に係る応募候補地について

ア 日本の場合、活断層がないところがないというくらいの国なので、活断層についてはよく調べておく必要がある。また、最寄の活断層から応募候補地までの距離を次回選定委員会で提示をしてほしい。

イ 過去の災害状況や、近年の降雨量なども考え施設整備を考えていくべきである。

ウ 廃棄物処理施設に係る費用は、市民一人ひとりの分別及びリサイクルに対する協力で変わってくる。市民一人当たりのごみ処理費用を公表し、それが分別の徹底によりどれだけ減らせられるかということを広く市民にPRし、理解を求めていくべきである。

エ まちづくり構想については、選定基準には反映しなくとも、応募をいただいた地元の切実な思いというものは、理解しながら選定していかなくてはならない。

オ これから最終処分場を建設するにあたり、地元とコンセンサスを得ていくことが非常に重要である。また、そこに至るまでのプロセスの中で、行政と地元がどう努力をしていくべきか互いに考えていかなくてはならない。

カ 日本は38万km²の内、平坦地は8万km²と平地が少なく、経済活動ができる面積が少ないため、環境問題が一番難しい国である。したがって行政と市民がみんなで考えていかなければならない。

6 今後のスケジュールについて

公開現地視察 平成20年6月3日(火)に実施

第2回津市新最終処分場候補地選定委員会の日程については、後日調整